

ベンチャー企業のアルハイテック(高岡市)が、廃アルミを活用した水素生成装置の販売・レンタルを強化している。21日には七尾市矢田町の障がい福祉サービス事業所「ゆづの丘」に貸し出し、アルミ缶のタテ約70センチから水素約90リットルを生成しクリスマスツリーの電飾を

1万円の使用料でレンタルを始めた。

同社によると、レンタル事業を始めて以降、全国の企業や自治体から問い合わせ約40件が寄せられた。現在は食品製造会社からアルミ製包装紙の再利用策を相談され、エ小僧を貸し出す方向で商談

水素生成装置 売り込み強化

点灯した。市販の燃料電池と接続すれば自家発電できることから、環境に優しいエネルギーとして企業や自治体に活用を提案する。

アルハイテックが昨年開発した「エ小僧」で、空き缶のタテや包装紙などの廃アルミから水素を簡単に生成できる。11月からは1日

を進めている。

アルハイテックは、トナミホールディングス(高岡市)などが2013年に北陸グリーンエネルギー1研究会と連携して設立した。担当者は「エ小僧の性能をレンタルで知ってもらい、販売につなげた」と話した。

12月21日

アルハイテック 企業、自治体に提案